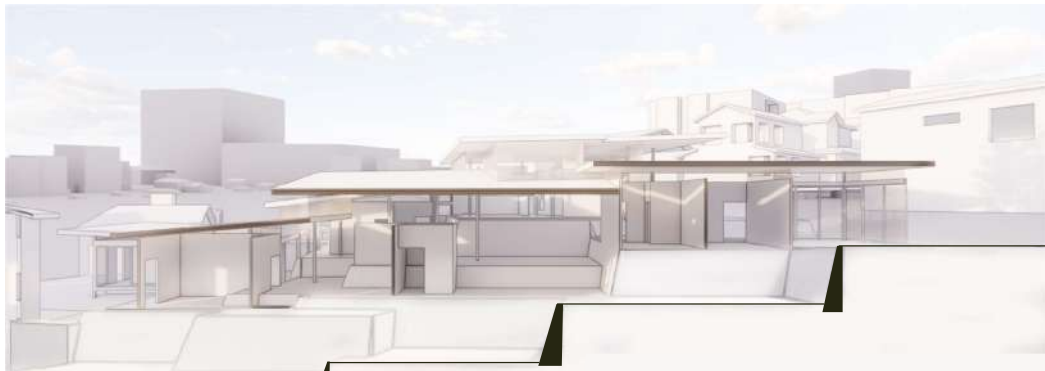


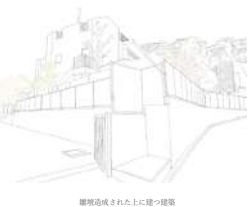
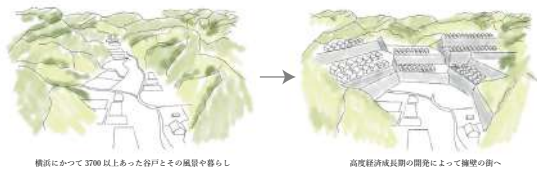


時間と環境のメディア

～「擁壁」に建築的な可能性を見出す坂の街における新たな公共空間～

1 | 研究背景

～地形のキズ～



擁壁による急激な高低差や大規模な集合住宅の建設は、そこで暮らす人々の「生活レベル」や「コミュニティの希薄さ」さえも可視化し、かつての「生態系」や「風景」までも消えていった。そうして出来上がった現在の擁壁は、建設から約 50 年が経ち、更新が始まる時期となった。

調査研究で訪れた熊本県八代市坂本町は、土砂崩れの跡が擁壁で塗り固められている最中で、自然豊かな風景が「擁壁」というキズ跡のような様に変わっていることに、100 年後、私たちが暮らす町の斜面は擁壁が張り巡らされた**キズだらけの街**になってしまっているのではないか、という一抹の不安がよぎった。

～もう 1 つの自然～



地形に出来たキズのように見える擁壁だが、その場所の環境やそこに流れた時間によって、コケやシダ植物ツルが巻き付き、長い時間をかけてもう**1 つの自然を形成**していた。擁壁に形成されたもう 1 つの自然や振る舞いの痕跡は、1 度淘汰されたはずの自然がその場の環境によって偶然表出したもので、その風景は、力強くおおかであると同時にとても公共的だと感じた。

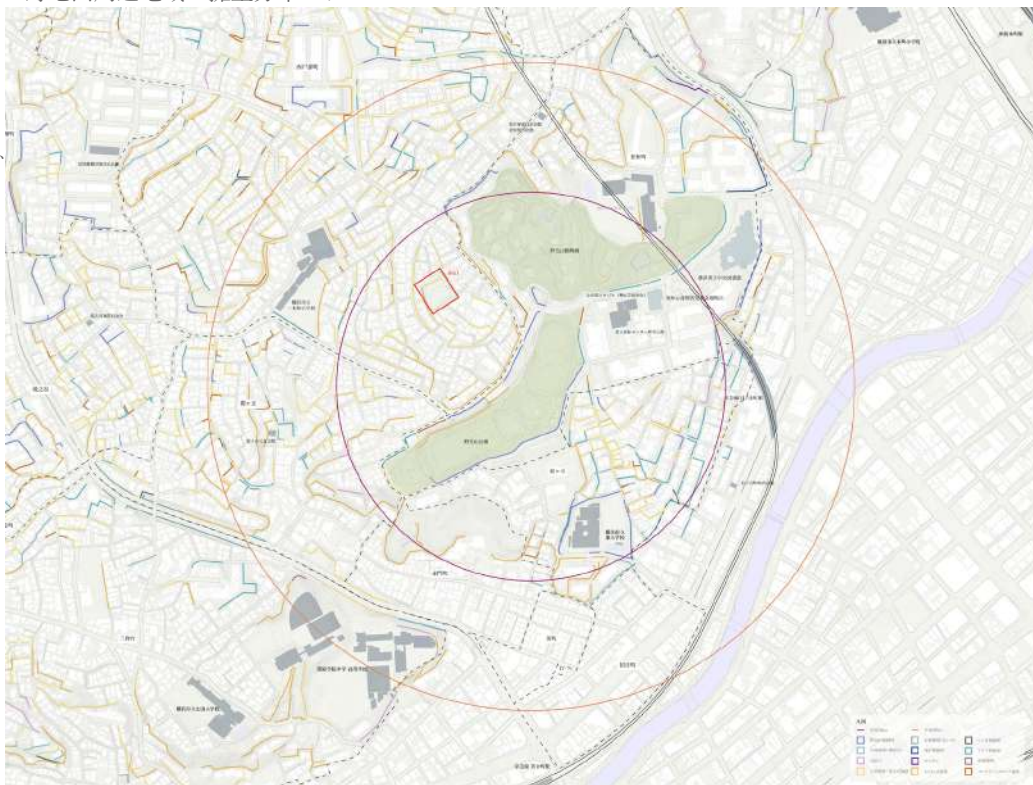
都市のすぐ隣に現れる「もう 1 つの自然」としての擁壁は、もはや単なる土木構造物を超えて、そこに流れた「時間」と「環境」の写し出すメディアなのだろう。そして、擁壁が持つ力強さとおおらかさは、偶発的な出会いや人々の自由な振る舞いを引き出す可能性を生むのではないだろうか。



2 | 野毛山周辺地域の与条件



～野毛山周辺地域の擁壁分布マップ～



横浜の擁壁凡例



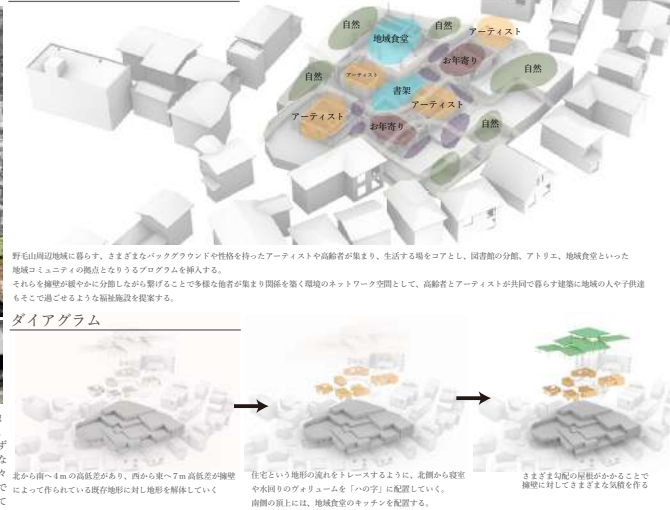
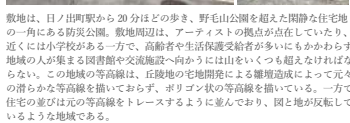
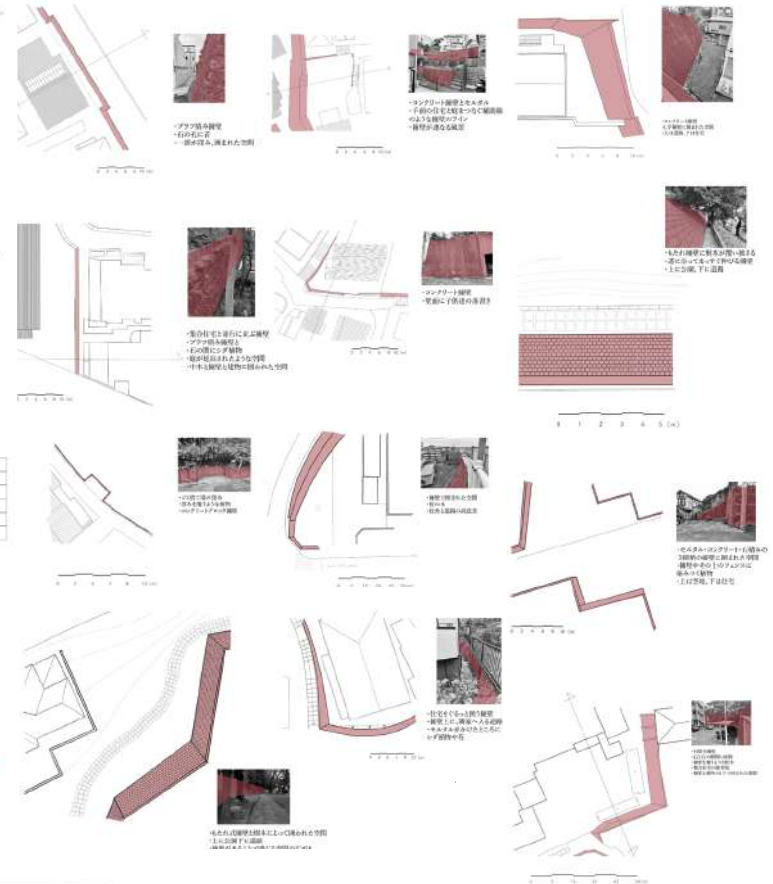
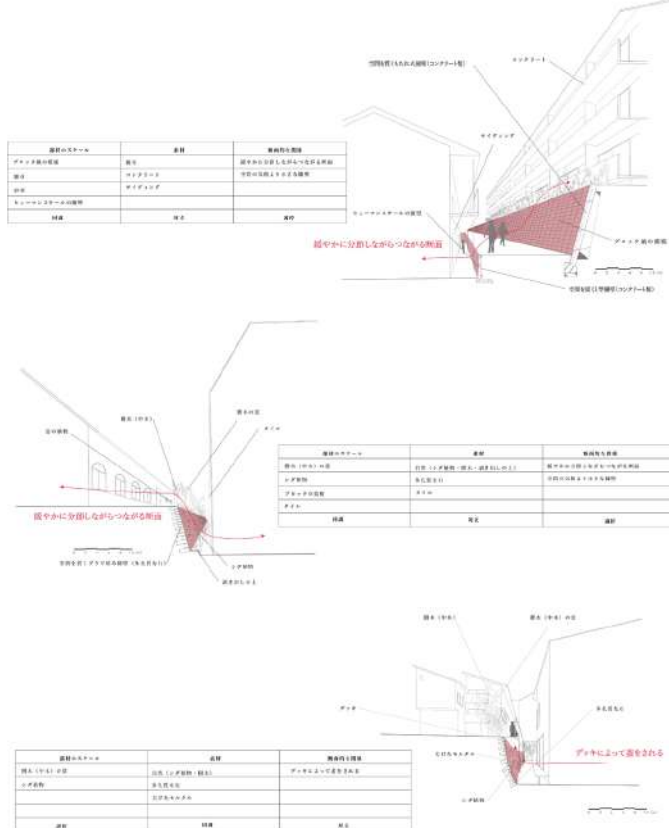
横浜の擁壁凡例



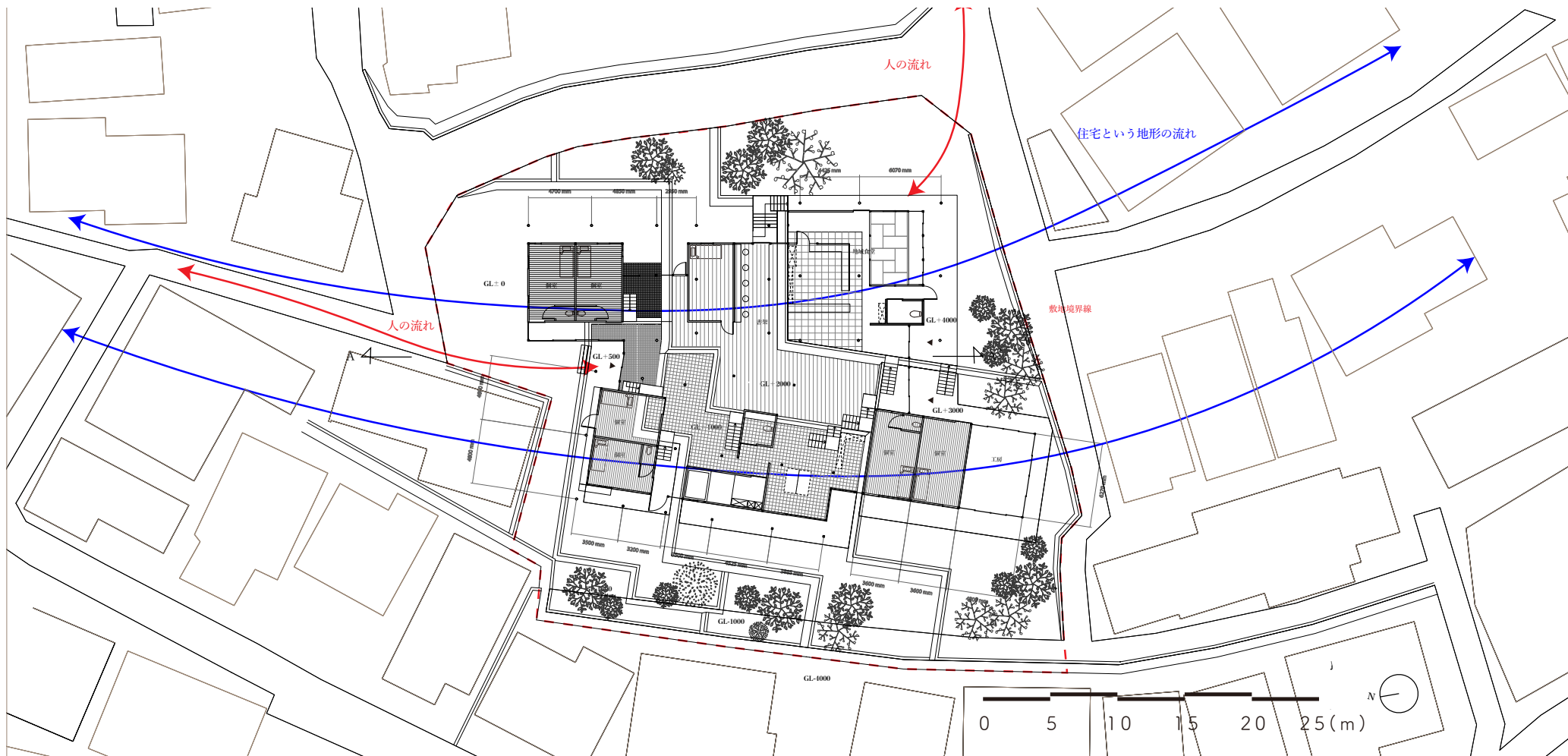
研究対象地域である野毛山周辺地域は、丘陵を切り盛り土し形成された市街地であるが、野毛山公園を境に、市街地形成の時期に差がある。また、高齢化や過疎化といった問題が他地域よりもより顕著に表れている。

更に野毛山周辺地域では、地域交流のために住民自ら公共的な場を作ることやアーティスト活動に対する助成金によってアーティスト・地域交流の拠点が斜面に点在している。

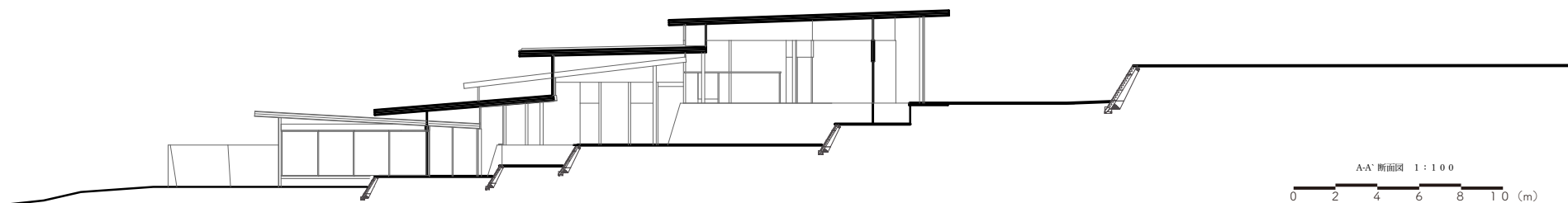
調査の結果、擁壁と擁壁によって生まれる空間の関係性は、「同調」「調停」「対立」いずれかの要素のみで成り立つのではなく、それぞれのネットワークで成り立っており、要素同士が付かず離れずの関係を築いていた。このことから私は、坂のまちでは、年齢や国籍、何かしらの障害を抱える人など、性格の異なる人や動物や植物といった多様な他者と、付かず離れずの関係を築く、多様な他者の総体としてできる環境が公共空間となるのではないかと考える。



既存の地形が持つ急激な高低差を解消するように細分化した擁壁がまちから建築へ、建築からまちへ連続していく。



ハの字に配置されたヴォリュームの間を、擁壁が緩やかに分節しながら繋がることで、リビングや図書館の分館、シェアアトリエといった場所となり、それぞれの活動や振る舞いが付かず離れず関係し合う環境を作る。



浮遊するように、ボリュームから構造的に独立した屋根を、勾配を変えながらかけていき、陽がよく当たるところ、日陰になるところ、風が抜けるところ、空気が溜まる場所など様々な環境を作る。

